

# 学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 病態解明医学講座 腫瘍病理学分野	氏 名	藤原 雅也
審 査 委 員	主 査 伊佐地 秀司 副 査 那谷 雅之 副 査 村田 真理子		
<p>(学位論文審査結果の要旨)</p> <p>ASF-4-1 fibroblast-rich culture increases chemoresistance and mTOR expression of pancreatic cancer BxPC-3 cells at the invasive front <i>in vitro</i>, and promotes tumor growth and invasion <i>in vivo</i></p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>膵癌は線維形成性の反応による豊富な線維結合組織が特徴となっている。本研究の目的は線維芽細胞量が増加した際に、膵癌の悪性度にどのような影響がでるか評価する事である。膵癌細胞由来の cell line である BxPC-3 細胞と、ヒト皮膚線維芽細胞由来の cell line である ASF-4-1 細胞を 1:1、1:3 の比で混合して比較検討された。線維芽細胞量が多い状態で共培養した組織では簇出 (budding) の形成が認められた。また、線維芽細胞量の少ない状態で共培養した BxPC-3 細胞よりも、線維芽細胞量が多い状態で共培養した BxPC-3 細胞の方が gemcitabine に対して抗癌剤耐性を示した。線維芽細胞量が多い状態で共培養した組織では、腫瘍先端部に存在する BxPC-3 細胞において、mammalian target of rapamycin (mTOR) の発現が免疫組織染色で確認された。線維芽細胞量が多い状態で共培養した組織片を移植したマウスにおいては、少ない状態で共培養した組織片を移植したマウスと比較して、腫瘍はより大きくなり、Ki-67(MIB-1) index も高値を示した。以上から、線維芽細胞量が多い状態で共培養すると、膵癌細胞 cell line の BxPC-3 細胞は <i>in vitro</i>, <i>in vivo</i> いずれにおいても悪性度が増加することが明らかにされた。</p>			

膵癌において、線維芽細胞量と悪性度との関連について研究した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものと認めた。

Oncology Letters

Accepted: January 28, 2015

Masaya Fujiwara, Kazuki Kanayama, Yoshifumi S. Hirokawa, Taizo Shiraishi